

平成16年度事業報告書

1. 平成16年度優秀業績の表彰

平成16年度優秀業績については慎重に検討された結果、

砂川慶介（北里大学医学部感染症学） 他8名
 「本邦における小児化膿性髄膜炎の動向（2000～2002）」
 （感染症学雑誌 Vol.78.No.10,p879-890,2004）
 以上、1件に二木賞が授与されることとなった。

井上純人（山形大学医学部器官病態統御学講座循環・呼吸・腎臓内科学分野） 他7名
 「Impaired Pulmonary Inflammatory Responses Are a Prominent Feature of Streptococcal Pneumonia in Mice with Experimental Emphysema」
 （American Journal of Respiratory and Critical Care Medicine, 167,764-770, 2003）
 上記の研究業績に対して日本感染症学会北里柴三郎記念学術奨励賞が授与されることとなった。

2. 講演会

平成16年4月6日、7日、東京都・東京ドームホテルにおいて第78回学術講演会を砂川慶介会長主宰のもとに開催した。

- | | | | |
|----|---|--|----------------|
| a | 会員の業績研究発表 | | 290題 |
| b | 招請講演 | | 1題 |
| | Controlling Pathogenic Bacteria on Mucosal Surfaces and UsirB-Dependent Phage Lytic Enzymes | Rockefeller University Vincent A. Fischetti, Ph.D. | |
| | 司会 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医学部感染分子病態学講座 | 河野 茂 | |
| c | 特別講演 | | 2題 |
| 1 | 感染症専門医の在り方 | 国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター 司会 北里大学医学部感染症学・同大学院感染制御科学府 | 木村 哲 砂川 慶介 |
| 2 | 新たなる感染症の発生に対応してSARS | 国立感染症研究所感染症情報センター 司会 杏林大学医学部第一内科 | 岡部 信彦 後藤 元 |
| d | 教育講演 | | 3題 |
| 1 | 消化器外科における術後感染症の治療戦略とサイクリング療法 | 東邦大学外科学第三講座 司会 東京女子医科大学感染対策部感染症科・血液内科 | 炭山 嘉伸 戸塚 恭一 |
| 2 | 感染症と漢方 | 北里大学北里生命科学研究所・北里大学大学院感染制御科学府・北里研究所 司会 東京慈恵会医科大学内科学 | 山田 陽城 柴 孝也 |
| 3 | プロバイオティクス | 杏林大学医学部感染症学 司会 東邦大学医学部微生物学教室 | 神谷 茂 山口 恵三 |
| e | シンポジウム | | 3題 |
| 1 | SARS とインフルエンザ | 司会 けいゆう病院小児科 | 菅谷 憲夫 |
| 1) | 基礎から | 東北大学加齢医学研究所呼吸器腫瘍研究分野 | 渡辺 彰 |
| 2) | インフルエンザ対策におけるサーベイランス | 東京大学医科学研究所感染・免疫大部門ウイルス感染分野 | 河岡 義裕 |
| 3) | 内科領域におけるインフルエンザの診断・治療の進歩 | 国立感染症研究所感染症情報センター | 谷口 清州 |
| 4) | 小児のインフルエンザ | 原土井病院臨床研究部 | 池松 秀之 |
| 5) | SARS とインフルエンザ | 川崎市立川崎病院小児科 | 三田村敬子 |
| 2 | 耐性菌感染症を減らすにはどうする | 国立国際医療センター呼吸器科 | 川名 明彦 |
| 1) | 薬剤耐性菌を含む呼吸器病原菌の家庭内伝播に関する分子疫学的検討 | 司会 北里大学医学部微生物・寄生虫学 長崎大学熱帯医学研究所感染症予防治療研究分野 | 井上 松久 永武 毅 |
| 2) | 薬剤耐性菌による尿路バイオフィルム感染症の問題点とその対策 | 長崎大学熱帯医学研究所感染症予防治療研究分野 | 渡辺 浩 |
| 3) | 歯性感染症における耐性菌 | 岡山大学大学院医歯学総合研究科泌尿器病態学 | 狩山 玲子 |
| 4) | 耐性菌の現状と展望 基礎細菌学の立場から | 東海大学医学部外科学系口腔外科 | 金子 明寛 |
| 5) | キノロン系抗菌薬耐性について | 北里大学医学部微生物・寄生虫学 | 岡本 了一 |
| 3 | 感染症対策におけるパラダイムシフト 医療保険制度、医療評価・医療の質、医療経済の観点から | 大日本製薬株式会社技術研究センター微生物管理グループ | 山岸 純一 |
| 1) | DPC (Diagnosis Procedure Combination) とは何か | 司会 慶應義塾大学医学部救急部 東北大学大学院医学系研究科病態制御学講座分子診断学分野 | 相川 直樹 賀来 満夫 |
| | | 産業医科大学医学部公衆衛生学教室 | 松田晋哉 |

- 2) 医療評価の観点から 大阪大学医学部附属病院感染制御部 朝野 和典
- 3) 院内感染とそのサーベイランス 21 世紀の日本の医療におけるキーワード 国立感染症研究所感染症情報センター 森兼 啓太
- 4) 包括評価における院内感染の経済評価 名古屋大学大学院医学系研究科機能構築医学専攻生体管理医学講座救急・集中治療医学 武澤 純
- 5) 特別発言：病院感染症，医療経済そして包括医療 国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター 木村 哲
- f インターアクティブカンファランス 1 題
- 目で見える感染症 司会 東京大学医科学研究所先端医療研究センター・感染症分野 岩本 愛吉
 パネラー サクラ精機株式会社 青木 眞
 千葉大学真菌医学研究センター 亀井 克彦
 都立駒込病院感染症科 今村 顕史
 設問作成 東京大学医科学研究所先端医療研究センター感染症分野 小田原 隆
- g 日本学術会議，免疫・感染症研究連絡委員会提供講演会 1 題
 感染症の周辺領域をめぐって 司会 日本感染症学会理事長 木村 哲
 慶応義塾大学医学部熱帯医学・寄生虫学教室 竹内 勤
 東京女子医科大学微生物学免疫学教室 内山 竹彦
- h サテライトセミナー 1 題
- 第3 回Infection Control Seminar ナビゲーター 国立感染症研究所感染症情報センター 岡部 信彦
 東北大学大学院医学系研究科病態制御学講座分子診断学分野 賀来 満夫
 コメンテーター 名古屋空港検疫支所 阿部 重人
 陸上自衛隊衛生学校 加来 浩器
 東京都立墨東病院 加藤 康幸
- i ランチョンセミナー 8 題
- 1 市中発症急性性呼吸器感染症の問題点と対策 東北大学加齢医学研究所呼吸器腫瘍研究分野 渡辺 彰
 座長 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医学部感染分子病態学講座 河野 茂
- 2 新たな感染症治療「OPAT（外来静注療法）」 日本での可能性 石心会狭山病院 豊永 義清
 座長 川崎医科大学呼吸器内科 二木 芳人
- 3 VRE 感染症の現状と今後の課題 産業医科大学泌尿器科学 松本 哲朗
 座長 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科泌尿器病態学 公文 裕巳
- 4 呼吸器感染症におけるRespiratory Quinolone の果たす役割 埼玉医科大学感染症科・感染制御科 前崎 繁文
 座長 杏林大学第一内科 後藤 元
- 5 呼吸器感染症におけるガイドラインと治療の実際 信楽園病院内科 青木 信樹
 座長 東京慈恵会医科大学内科学 柴 孝也
- 6 インフルエンザをめぐる最近の話題～予防から治療まで～ 長崎大学熱帯医学研究所感染症予防治療研究分野 永武 毅
 座長 長崎大学・愛野記念病院 松本 慶蔵
- 7 『マイコプラズマ感染症の何がどこまでわかっているか』～病態解明への長い道～ 札幌鉄道病院小児科 成田 光生
 座長 医療法人栄和会泉川病院 泉川 欣一
- 8 深在性真菌症の診断・治療は今後どう変わるか 川崎医科大学呼吸器内科 二木 芳人
 座長 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医学部感染分子病態学講座 河野 茂

3. 雑誌刊行

感染症学雑誌 第78巻1号より逐次刊行した。

Journal of Infection and Chemotherapy Vol.10, No.1より逐次刊行した。

地方会総会プログラムを感染症学雑誌に掲載。

4. 地方会

・第53回東日本地方会総会は、平成16年10月21日、22日の両日、下条文武会長のもとで第51回日本化学療法学会東日本支部総会（青木信樹 会長）と合同で新潟市・朱鷺メッセで行われた。

招請講演 1題、特別講演 1題、シンポジウム 3題、ワークショップ 3題、教育講演 7題、ベーシックレクチャー 7題、教育セミナー 16題、ICD講習会 1題、臨床試験指導者制度講習会 1題、新薬シンポジウム 1題

一般演題 142題

参加人数 1000名

・第47回中日本地方会総会は、平成16年10月23日、西山秀樹会長のもとで和歌山市・和歌山東急インで行われた。

教育講演 2題、ランチョンセミナー 1題
 一般演題 30題
 参加人数 200名

・第74回西日本地方会総会は、平成16年11月25日、26日の両日、富岡治明会長のもとで松江市・島根県民会館で行われた。

会長講演 1題、特別講演 2題、教育講演 1題、シンポジウム 1題、感染症優秀論文賞講演 1題
 一般演題 87題
 参加人数 300名

5. 院内感染対策講習会

1) 講習場所、期間及び人員

| 講習場所 | 職種 | 年次 | 開催日 | 人数 |
|---------------------------------|-------|-------|-----------|------|
| 仙台市情報・産業プラザ多目的ホール・セミナールーム | (医師) | 平成16年 | 9月29日、30日 | 88名 |
| | (看護師) | 平成16年 | 9月29日、30日 | 98名 |
| 東京女子医科大学弥生記念講堂・臨床講堂 | (医師) | 平成16年 | 9月11日、12日 | 86名 |
| | (看護師) | 平成16年 | 9月11日、12日 | 90名 |
| 名古屋市立大学病院中央診療棟3階大ホール・医学部研究棟講義室A | (医師) | 平成16年 | 9月25日、26日 | 96名 |
| | (看護師) | 平成16年 | 29日、26日 | 97名 |
| 長崎大学医学部記念講堂 | (医師) | 平成16年 | 10月9日、10日 | 88名 |
| | (看護師) | 平成16年 | 10月9日、10日 | 95名 |
| 合 計 | | | | 738名 |

2) 講習内容

| 職種 | 講習内容 | 時間 | 合計 |
|-------------|---------------|--------|-----|
| (医師) | 血液媒介感染等 | 40分 | 40分 |
| | 院内感染関連微生物学 | 1時間10分 | |
| | 院内感染対策 | 1時間40分 | |
| | 院内感染対策 | 1時間40分 | |
| | 院内感染関連法令 | 30分 | |
| | 院内感染の薬物療法 | 1時間20分 | |
| | 院内感染対策のシステム化 | 1時間10分 | |
| | SARSの院内感染対策 | 40分 | |
| (看護師) | パネルディスカッション | 1時間45分 | 40分 |
| | 血液媒介感染等 | 40分 | |
| | 院内感染関連微生物学 | 1時間10分 | |
| | 消毒および滅菌の基礎と実際 | 1時間10分 | |
| | 環境管理 | 1時間40分 | |
| | 院内感染関連法令 | 30分 | |
| | 感染防止の実際 | 1時間20分 | |
| | 看護管理上の対応 | 1時間10分 | |
| SARSの院内感染対策 | 40分 | | |
| パネルディスカッション | 1時間45分 | | |

6. 施設内MRSA対策相談窓口業務

| | | | |
|-------|-----------------|------|-----|
| 平成16年 | 3月1日～平成16年3月31日 | 質問件数 | 4件 |
| 平成16年 | 4月1日～平成17年2月28日 | 質問件数 | 83件 |

7. 感染症専門医

| 感染症専門医試験合格者 | 36名 | 敬称略 | | | | |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 麻生 憲史 | 飯沼 由嗣 | 石川 守 | 伊志嶺朝彦 | 伊部 正明 | 井本 耕二 | 右近 智雄 |
| 大野 秀明 | 掛屋 弘 | 加藤 康幸 | 川崎 聡 | 川村 尚久 | 久保 恵嗣 | 小池 竜司 |
| 小林健一郎 | 駒瀬 裕子 | 小松 陽樹 | 斉藤 崇 | 佐藤 雅樹 | 杉野 安輝 | 鈴木 里香 |
| 竹田 宏 | 田坂 勝視 | 時松 一成 | 徳田 浩一 | 鍋島 茂樹 | 新妻 隆広 | 西堀 武明 |
| 西村 善博 | 菱木はるか | 平松 和史 | 福岡 麻美 | 馬庭 厚 | 森 啓 | 吉田 敦 |
| 四柳 宏 | | | | | | |

更新者 82名

有限責任中間法人日本専門医認定機構の決定した基本領域学会のうち、平成17年1月末までに当学会専門医制度二階建制に関する合意を交わした学会は以下の通りです。

日本医学放射線学会 日本眼科学会 日本救急医学会 日本産科婦人科学会

日本耳鼻咽喉科学会
日本内科学会
日本病理学会

日本小児科学会
日本脳神経外科学会
日本麻酔科学会

日本整形外科学会
日本泌尿器科学会
日本臨床検査医学会

日本精神神経学会
日本皮膚科学会
日本リハビリテーション医学会

8. ICD制度協議会

新規認定者 174名

更新者 680名

(感染症学雑誌79巻 3号参照)

庶務報告

1. 会員数 8429名 平成17年2月28日現在
2. 第78回日本感染症学会総会は平成16年4月6日、東京ドームホテルにおいて行った。
3. 平成16年度評議員会は平成16年4月6日、東京ドームホテルにおいて行った。
4. 理事会は5回行った。
5. 感染症学雑誌編集委員会は12回行った。
Journal of Infection and Chemotherapy 編集委員会は11回行った。
6. 学会賞選考委員会は1回行った。
7. 専門医制度審議会は1回行った。
専門医ワーキンググループ会議は9回行った。
8. 「抗菌薬使用のガイドライン」の基本方針検討委員会を2回行った。
9. 経理事務打合せ会は1回行った。
10. 学会在り方委員会は2回行った。